

データから見る 大和に暮らす外国人^{※1)}

国際化協会では今までに、「大和市には、いろいろな国籍の、多くの外国の方が暮らしています」とか、「ペルーとインドシナ三国(ベトナム、ラオス、カンボジア)出身者が多いことが特徴です」というお話を、いろいろなところで話したり、書いたりさせていただいてきました。

今回の Pal では、大和市の「外国人登録者数」をさらに詳しく分けてみたり、過去の数字と比べたりしながら、大和市には今、どんな外国人が住んでいるのかをご紹介しますと思います。

※1)この稿に限り「日本以外の国籍を持ち、大和市に住民登録している人(無国籍を含む)」を“大和に暮らす外国人”と表しました。ここに示したのは、「国籍」を切り口に数の側面からみた外国人市民の姿です。日本国籍を取得した人や、両親のどちらかが外国籍で本人自身は日本国籍を持っている(外国につながる)人は含みません。このような人たちの存在を合わせて考えれば、大和は、数字で見る以上に多様な人たちで構成されていることとなります。

1 今までのおさらい～69ヶ国から5,473人

大和市には、2013年4月1日現在、69ヶ国 5,473人の外国籍市民が住民登録をしています。市民の約42人に1人が外国籍市民ということになります。一番多いのは、中国、その次がペルー、次いで韓国、以下10位までは、表1のとおりです。国名の隣に入っているのは、その国の主要言語です。実は英語話者は少なく(アメリカが87名で11位)、市内でいろいろな言葉が話されている(それはつまり、いろいろな言葉での情報提供が必要である)ことが分ります。

表1: 国籍別順位

順位	国籍(言語)	人数
1	中国(中国語)	1,091
2	ペルー(スペイン語)	781
3	韓国(ハングル)	776
4	フィリピン(タガログ)	697
5	ベトナム(ベトナム語)	518
6	ブラジル(ポルトガル語)	342
7	タイ(タイ語)	181
8	カンボジア(カンボジア語)	152
9	ラオス(ラオス語)	91
10	朝鮮(ハングル)	90

(2013年4月1日現在)

表2: 神奈川県に住む外国籍住民の数と割合

市町村名	外国籍住民の数	市の人口	割合
横浜市	75,099	3,698,437	2.03%
川崎市	29,624	1,440,003	2.05%
相模原市	10,262	720,244	1.42%
大和市	5,594	231,108	2.42%
綾瀬市	2,793	83,845	3.33%
愛川町	2,248	41,461	5.42%
神奈川県	161,155	9,075,075	1.77%

(2012年12月末日現在)

神奈川県には、2012年12月末日現在で161,155人の外国籍住民が暮らしています。大和市は外国籍住民の数で県内第4位、人口に占める外国籍住民の割合は県内第3位と、県内でも特に外国人が多く住んでいる地域です。



2 どんな人たちが暮らしているの? (年齢構成と在留資格)

5,473人の外国籍住民のうち、男性は2,435人(約45%)、女性は3,038人(約55%)。女性の方が多く住んでいます。年齢構成(グラフ1)を見てみると、市民全体と比べて働き盛りの若くて元気な世代の割合が高いことが分ります。

グラフ1: 市民と外国人登録者数の年齢構成(2013年4月1日現在)

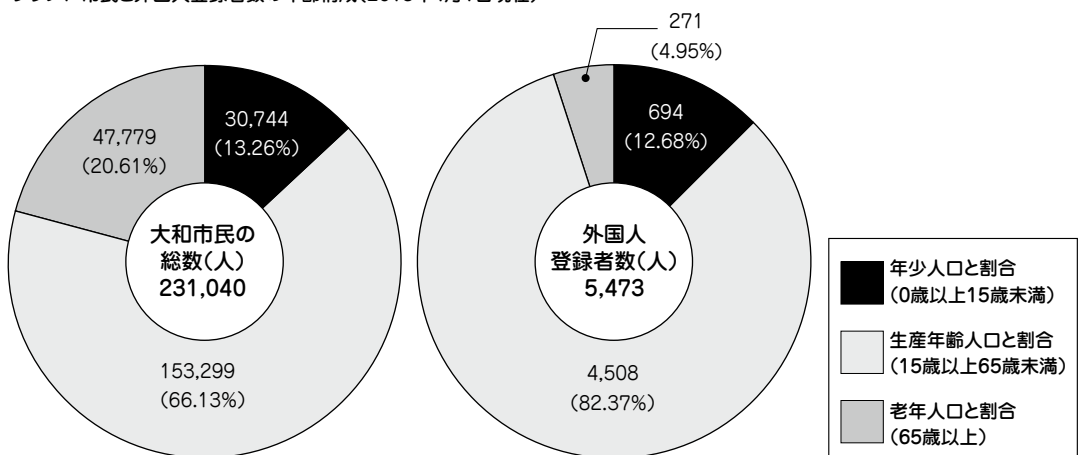


表3: 世代別国籍別外国人登録者統計

(2013年4月1日現在)

	総数	0~5歳	6歳~15歳	65歳以上
1位	中国(1,091)	中国(57)	ペルー(116)	韓国(198)
2位	ペルー(781)	ベトナム(53)	フィリピン(73)	ペルー(45)
3位	韓国(776)	ペルー(41)	中国(60)	朝鮮(37)

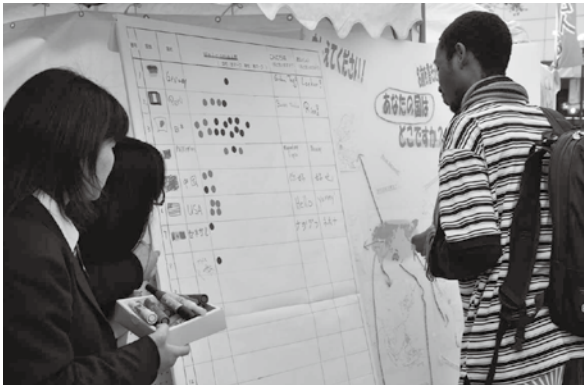
表4: 在留資格別統計

在留資格	人数
永住者	2,800
定住者	663
日本人の配偶者	553
特別永住者	494
家族滞在	216
技術	123
留学	170
永住者の配偶者等	146
人文知識・国際業務	104
技能	77
特定活動	20
企業内転勤	11
教授	7
投資・経営	16
教育	13
文化活動	4
宗教	7
技能実習1号ロ	10
技能実習2号ロ	15
技能実習1号イ	19
出生	5
合計	5,473

(2013年4月1日現在)

各世代の国籍別統計(表3)からは、乳幼児やその母親への支援は中国語やベトナム語で、学校ではスペイン語や南米文化、フィリピンにつながる子どもたちへの理解が、高齢者への対応では、戦前戦中より日本に暮らす外国人市民の背景への理解が必要であるなど、年代によって、必要な言語、知っておくべき文化的背景が違っていることが見えてきます。

在留資格から見てみると(表4)、永住者や定住者、日本人の配偶者など、生活の基盤を大和においでいる人が多く、留学生や技能実習生など、勉強や技術の習得のために大和に滞在している人は少ないことが分ります。



3 過去の数字と比べてみると(外国人登録者数の増減)

過去5年間の外国人登録者数をグラフにしてみました(グラフ2,3)。実は、2008年の金融危機や2011年の東日本大震災を経て、2009年4月をピークに大和市の外国人登録者数は、減少を続けています。数にして1,176人、1/6以上の外国人市民が大和市から転出したこととなります。特にペルー国籍の転出が多く、最も多かった2006年3月(1,354人)から比べてみると42%近くの人が市外に転出したこととなります。

ただ、この5年間で、グラフ3からも分かる通り在留資格「永住者」の登録者数は増えています。それはつまり、今、大和に暮らす外国人の多くが、これから先も生活の基盤を日本に据えて住み続ける覚悟を決めている、ということです。

こんな風に細かく見てみると、「多くの外国人が住んでいる大和市」という以上に、地域の特性や変化の様子が分ります。5年前には一人もいなかった技能実習の在留資格を持つ外国人が、今年は44人になるなど、今までにはない背景を持つ外国人市民も増えてきています。このまま、大和市から外国人が減り続けるということはないでしょう。同じ地域の住民として、多様な人たちをどのように受け入れていくのか、また地域をより良くしていくために、どのように力を出し合っていけばよいのか、地域の課題の一つとして、みんなで共有していくことが大切であると感じます。

